

2023年度

科目名称	物理療法学実習
授業コード	AD226
英語名称	Physical Agents Practice
学期	2023年度前期
単位	1.0
担当教員	平賀 篤 (医療科学部), 安齋 久美子 (医療科学部), 渡辺 長 (医療科学部), 渡辺 龍馬 (医療科学部), 渡邊 郁海 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	(B) 自己実現能力の養成を行う。 理学療法の基本手段の一つである物理療法の作用を、物理学や生理学で得た基礎的事項を背景として実習形式で自ら体感し学習することを目的とする。病院その他にて様々な領域の症例を経験した教員が、物理療法機器の使用経験に基づき実際に機器を操作を助言しながら演習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床現場にて長年物理療法に携わってきた複数の教員が、それぞれの専門分野での活用経験を駆使して実習指導を行う。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる「科学的根拠に基づいた実践的な理学療法の習得」を目的とし、以下を到達目標とする。 【知識、理解ならびに汎用的技能についての到達目標】 1. 物理療法手技を安全かつ効果的に実施できるよう、機器の操作方法について具体的に習得できる。 2. 臨床場面で状況に応じた適切な物理療法手段を選択し、実施する能力を習得できる。
計画・内容	各授業は、学生の小グループ毎に被験者 & 物理療法施行者の相互関係となり実施する。実施に際しては、担当教員の全員が学生間に指示を与えるので、疑問点が生じたら其の都度、個別に指導を求める積極性の発揮を期待する。 また授業は2限連続で実施するものとする。 1・2回) 実習オリエンテーションと実験に必要な知識の整理・次回以降の実習準備 (平賀・安齋・渡辺長: 理学療法士) 次回からの実習を遂行するため、実験計画書の作成やデータ処理の方法について教示したのち実施項目内で使用予定の物理療法機器を実際に操作する。その際に内容 (特性・治療適応・治療方法・禁忌事項) を網羅すること。 以下の3・4回 ~ 19・20回の9項目を実習課題とし、全9回をかけて全ての課題を実施する。なお各班毎に課題の順番は異なり、詳しい順番は1・2回のオリエンテーションの時に伝達する。 何れの授業も開始時と終了宣言は全体集合の時間を設ける。 何れの実習に際しても各々学生は実習報告書を授業時間内に完成して提出する事を義務とし、報告書の提出が無い者はその回の方は欠席と見なす。 < 実施項目順番の例 > 3 ~ 23回の全ての実習時間を教員の指示の下で学習する (平賀・安齋・渡辺長・渡辺龍・渡邊郁: 理学療法士) 3・4回) 温熱療法 (ホットバック, パラフィン浴) 5・6回) 寒冷療法実施 (氷冷法, 冷バック, クリッカー) 7・8回) 光線療法実施 (赤外線, 紫外線, レーザー 光線療法) 9・10回) 水治療法実施 (渦流浴, 気泡浴) 11・12回) 電気刺激療法実施 (治療的電気刺激療法EMS, 経皮的末梢神経電気刺激療法TENS) 13・14回) 牽引療法実施 (頸椎・腰椎牽引療法)、持続的他動運動療法CPM実施 15・16回) 超短波療法, 極超短波療法, 超音波療法実施 17・18回) マッサージ療法実施 19・20回) バイオフィードバック療法実施

2023年度

計画・内容	21・22・23回) 各回提出の報告書内容の吟味と報告会の実施、授業のまとめ * 上記授業内項目及び内容は授業進行状況により変更することもある。
授業の進め方	実習を実施するに当たり、教員側で事前にグループを作成、本実習中はその班単位での活動とする。教科書の実習項目を参考とし、事前に実施スケジュールと実施内容を教員側より提示する。詳細については初回授業時に説明する。各機器毎の課題は教科書に提示された内容を踏襲するが班構成員の具体的疑問を解決すべく班単位では課題を追加して検討を加えても良い。実習後半では各班が独自に実験計画を立て、開始までに担当教員と適宜方法について検討する。実習中は必要に応じて適宜デモンストレーションを行い、学生間での実際の物理療法体験と模擬治療を経験する。授業時間内に課題レポートを作成し提出することで授業出席とみなす。
能動的な学びの実施	各回グループワークでの実験授業を基軸とし、実験及び結果の解釈についてディスカッションを行う。
授業時間外の学修	事前に実験機器の予習を実施し、実験シミュレーションを実施する。実験後は結果を整理して復習を行う(合計30時間程度)
教科書・参考書	【教科書】：上杉雅之監修，イラストでわかる物理療法，医歯薬出版株式会社，2019年第1版 ¥4000
成績評価方法と基準	授業課題と実験事前計画書(30%)、実験報告書内容(40%)、授業後最終レポート(30%)にて総合的に成績評価を行う。
課題等に対するフィードバック	報告書内容は最終回に総括してフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	物理的な刺激(強度・用量・時間・特性)を人体に及ぼす事に対し、常に危機管理を怠らぬ様に注意して実施すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomと配布課題を用い、実験に関するディスカッションを行う。また実験動画などをオンデマンド形式で活用する。 授業課題と実験事前計画書(40%)、実験報告書内容(60%)にて成績評価を行うが、実験ができない場合は代替レポートにて成績評価を行う。